

Book Review



歯科診療に基づく研究・ 英語論文執筆ガイド

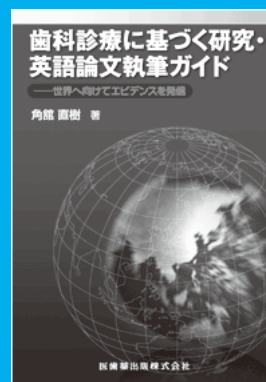
角館直樹 著



Reviewer

工藤真幸 Masaki Kudo
(北海道・まさき歯科・小児歯科)

A5判, 116頁
定価 2,940円
(本体 2,800円+税 5%)
医歯薬出版刊



毎日の診療のなかでふと疑問が湧いてくことは誰もが経験することである。「同じように説明しても、定期歯科検診に来る人と来ない人がいるのはなぜだろう?」——こんな小さな疑問から著者の臨床研究への第一歩は始まった。

患者満足度を上げるためにはどうしたらよいか? 修復物はどのくらいもつのか? 予防と補綴の収支の差は? など、著者はこれら何気ない日常診療の疑問を臨床研究の手法を用いて次々と解決していく。そしてそれらの結果を日常臨床へフィードバックさせるのである。

今は日々歯科診療に携わっている先生方のなかにも、数年、十数年前は大学で研究をされていた方も多いのではないか。従来から大学での研究は基礎研究ないしはその臨床応用などが主で、実験等に膨大な時間とエネルギーを必要とし、毎日の診療との両立はとても不可能であろう。一方、日々の診療の疑問からエビデンスを求める臨床研究は「診療をしながら研究に携わる」ことが可能なのである。

ノーベル賞受賞で日本中を沸かせた

山中教授の iPS 研究の快挙も、きっかけはほんのちょっとした工夫や考えだったとのこと。基礎、臨床問わず、どのような研究もほんの些細な疑問やアイデアがきっかけになることが多いもの。歯科の分野でも臨床研究の手法を用いて小さな疑問を解決することで新たな知見や発見につながる可能性が大いにあるといえる。

本書は日常の歯科診療で見つけた疑問に基づき、具体的な事例を示しながら、臨床研究の面白さや楽しさ、またその方法をわかりやすく解説している。そして、その結果をどのようにして論文にまとめるか、さらには英文誌に投稿する方法まで親切に書かれている。

著者は大学卒業後、臨床医として勤務する傍ら大学院を修了し、その間さまざまな臨床研究のテーマに沿って多くの論文を発表している。その後、日本における臨床医学研究の第一人者である京都大学大学院医学研究科・福原俊一教授のもとで学位を取得。本年3月まで米国スタンフォード大学で研究生生活を送られていた。先日、著者の最新論文(後述する Dental-Practice-

Based Research Network Japan として初めての臨床研究)が、*JDR (Journal of Dental Research)* 誌に掲載された¹⁾。常に歯科臨床医の立場から問題を発見し、それを臨床研究の方法に則り、着々と実績を上げていくその洞察力と行動力に、私はいつも敬服させられている。

また、著者は本書にあるように、米国で今や 1,000 人以上の会員を擁する開業医主体の臨床研究ネットワーク Dental Practice-Based Research Network (DPBRN) に日本から参加すべく、2010年に Dental PBRN Japan (JDPBRN) を設立し、活動を開始した。

研究マインドをもった臨床家や、これから臨床を極めようとする若い先生方、今こそ日常臨床の疑問を解決し、世界に発信するチャンスである。本書を読んで臨床研究の面白さを知り、ネットワークに参加されませんか。

1) Kakudate N, Sumida F, Matsumoto Y, Manabe K, Yokoyama Y, Gilbert GH, Gordan VV. Restorative treatment thresholds for proximal caries in Dental PBRN. *J Dent Res*. 2012; **91** (12): 1202-1208.